

愛媛大学医学部附属病院を受診している患者さんへ

研究に対するご協力をお願い

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認後、当院で病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、患者さんのカルテの情報を使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテの情報を利用してほしくない方は、以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。ただし、研究結果が出た後など研究の対象から削除できない場合もありますのでご了承ください。

※試料・情報の利用を拒否された場合でも、あなたが不利益を受けることはありません。

研究課題名	乳がん周術期における患者負担および不安の可視化 — 看護記録・診療録自由記載の大規模言語モデル解析 —
研究機関名	愛媛大学医学部附属病院
試料・情報の提供を行う研究機関の長	愛媛大学医学部附属病院 病院長 (試料・情報の提供元の管理責任者)
研究責任者 (個人情報管理者)	肝胆膵・乳腺外科 准教授 亀井 義明
研究期間	研究機関の長の許可日 ～ 2027 年 12 月 31 日
対象となる方	2020年1月から2025年12月に愛媛大学医学部附属病院を受診された方のうち乳がんと診断されて手術を受けた患者さん
利用する試料・情報等	(利用するカルテ情報) 性別、年齢、発症時期、合併症、既往歴、身体所見、血液検査データ、画像検査データ、治療状況 等
研究の概要 (目的・方法)	当院では、乳がん治療を受けられた患者さんの周術期から外来経過における身体的および心理的負担の実態を明らかにすることを目的として、診療録および看護記録の自由記載を用いた後ろ向き観察研究を実施しています。本研究では、匿名化した自由記載データを対象に、大規模言語モデルを用いて文脈を考慮した内容分類を行い、患者さんの負担や不安の出現傾向を解析します。なお、本研究は既存の診療情報を用いるものであり、新たな検査や治療を行うものではありません。
個人情報の保護 について	この研究で収集される試料・情報等は氏名、住所、生年月日など患者さんを直接特定できる情報を削除して誰のものかわからないようにした上で利用いたします。患者さんを特定するための情報(対応表)は、院内で個人情報管理者が厳重に保管し外部への提供は行いません。 また、保管される情報等を新たな研究に利用する場合は、新たな研究として倫理

	審査委員会に申請し、承認されてから利用いたします。なお、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。
お問い合わせ先	愛媛大学医学部附属病院 肝胆膵・乳腺外科 村上朱里 791-0295 愛媛県東温市志津川 454 Tel: 089-960-5327